

基本から学ぶ発達障害（神経発達症）

～2つのタイプの発達障害という考え方～

*日本臨床心理士資格認定協会「短期研修機会(ワークショップ)」【承認番号:20210392 承認期間:2022年7月2日~2027年7月1日】

なお、本講座は2ポイント(予定)となります。

*特別支援教育士[S.E.N.S]、特別支援教育士スーパーバイザー[S.E.N.S-SV]更新ポイント認定講座【承認番号:S.E.N.S第22-088号】

期 日：2023年2月4日(土)、8日(水)のどちらかのご希望日

※ご希望日を必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象：発達障害児・者に携わる先生方・専門職、行政職、団体職員、ボランティア等

申込期限：2023年1月27日(金) (お申込みは先着順ですが、期限前に募集を終了する場合がございます)

受講料：7,500円(税込み)

配信方法：『Cisco Webex』を使用し、配信 ※事前承認制です

本講座は事前にビデオ収録し、当日オンラインで配信する講座です

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

東京都豊島区高田3-19-10

*** <企画および講義> ***

宮本 信也 先生：白百合女子大学人間総合学部発達心理学科 教授

子どもの発達には、ある年代であることができるようになる、それまでよく分かっていなかったことが分かるようになるなど、ほとんどの子どもがほぼ同じように持っている特徴があります。例えば、ほとんどの子どもは1歳~1歳半の間で意味のある言葉を話すようになりますし、3~4歳で役割遊びをするようになります。また、教育は必要ですが、今の時代であれば、多くの子どもは、6~7歳でひらがなを読めるようになります。

このような、ほとんどの子どもが示す発達における一定の特徴を定型発達特性と呼びたいと思います。そして、そうした定型的な発達特性とは異なる発達の特徴(非定型発達特性)を持つ子どもたちがいます。例えば、2歳になっても言葉を話さない、4歳なのに一人遊びが中心で他の子どもには関心を全く示さない、みんなと同じように教えてもらっているのに文字を読むのがたどたどしいなどです。

発達障害(医療では神経発達症と呼びます)とは、そのような非定型発達特性があり、そのために日常生活や社会生活においてさまざまな困難を抱えている状態をいいます。

ところで、非定型発達特性を背景として顕在化する問題は、成績面の問題と行動面の問題に分けることができます。成績面の問題とは、学校の勉強の成績ということではありません。ほとんどの子どもが、生活の中での体験や練習・教育を通して、それほど苦勞することなくできるようになる事柄(言葉を話す、文字の読み書き、着替えなど)がなかなかできないということです。そして、発達障害は、主な問題が成績面の問題であるタイプと行動面の問題であるタイプに分けて考えることができます。このような考え方の意義も含め、発達障害の基本的な事項について解説します。

【宮本 信也】

<プログラム>

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。

	時間	テーマ
各 日	10:20頃~	オンライン講座の事前案内
	10:30~11:45	行動問題を主とする発達障害 自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症
	11:45~12:45	休 憩
	12:45~14:00	成績問題を主とする発達障害 知的発達症、コミュニケーション障害、限局性学習症、発達性協調運動症
	14:10~15:25	発達障害への支援
	15:35~16:50	発達障害の多様性